

国際卓越研究大学の 認定等に関する有識者会議 (アドバイザーボード) 第2期委員	
アンドリュー・ D・ハミルトン	ニューヨーク大学名誉学長
梶原 ゆみ子	内閣府CSTI議員 産業競争力懇談会 エグゼクティブアドバイザー
金丸 恭文	フューチャー(株)代表取締役会長兼社長
川合 眞紀	自然科学研究機構長 科学技術振興機構 研究開発戦略センター長
大野 英男	東北大学総長特別顧問 経済産業省特別顧問(科学技術担当)
篠原 弘道	NTT相談役 日本経済団体連合会 デジタルエコノミー推進委員会委員長
タン・チョー・ チュアン	シンガポール科学技術研究庁長官
上山 隆大	内閣府本府参与 (科学技術・イノベーション担当)
ジョン・ウィルトン	ウィルトン・ストラテジー社CEO
山本 喜久	スタンフォード大学名誉教授 国立情報学研究所名誉教授
山崎 光悦	福島国際研究教育機構理事長



会議冒頭あいさつする赤松健文部科学大臣政務官(中央)

国際卓越研究大学、第2ラウンド開始 認定に向け アドバイザリーボードが初会合

文部科学省は6月10日、「国際卓越研究大学の認定等に関する有識者会議（アドバイザーボード）」を開催した。大学ファンドの支援対象となる「国際卓越研究大学」認定に向けた審査が始まった。

政府は、10兆円規模の大学ファンドの運用益を活用して、世界トップレベルの研究大学の実現を目指している。昨年12月、東北大学を初の国際卓越研究大学に認定・認可したが、

大学ファンドによる助成は最長25年間におよび、東北大には初年度（2025年度）、約154億円が配分される。

文科省は卓越大の2回目公募を昨年12月から開始。5月16日に締め切り、国立私立の8校から申請があった。申請があった大学は受付順に、大阪大学、京都大学、早稲田大学、東京大学、九州大学、東京科学大学、筑波大学、名古屋大学の8校。いずれも第1回公募に続く申請で、卓越大の認定に再挑戦することとなる。

2期目の審査を行うアドバイザーボードの委員には、東北大学前総長の「大野英男氏やニューヨーク大学名誉学長の「アンドリュー・D・ハミルトン氏など11名が就いた。座長には、今年3月まで9年間、総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）常勤議員を務めた上山隆大氏を選任。上山氏は「セカンドラウンドが始まる。緊張感を持ってこの会議に臨みたい。1期目では東北大学1校のみを認定するという結果になったが、今回は8校から申請があり、その中で、果たして卓越大という基準に合うかどうかについて議論していく。極めて重い責任を感じている。忌憚らない意見を交わしながら、良い結論になっていけばいい」と語った。

文科省は選定の要件として、①国際的に卓越した研究成果を創出できる研究力②実効性高く、意欲的な事業・財務戦略③自律と責任のあるガバナンス体制――を挙げている。冬頃までに候補を絞り込み、今年度中に助成を始めたい考えだ。